

# 葉をかき取りながら 長い間収穫できるサンチュ



サンチュというのは韓国名で、わが国ではカキチシヤまたは包菜(ほうさい)と呼ばれます。

カキチシヤの名の通り、大きく育った葉を下の方からかき取り収穫するのですが、その後茎が伸びて葉を増やすので、それを順次上の方に向かって、長い間取り続けることができます。1株から数カ月にわたり、数十枚もの葉を取ることで、大変重宝します。利用に当たっての大きな特色は、葉が平滑で葉脈が柔らかく、曲げても破れにくいことです。そのため焼き肉や刺し身を包んで食べることが出来ます。もちろん

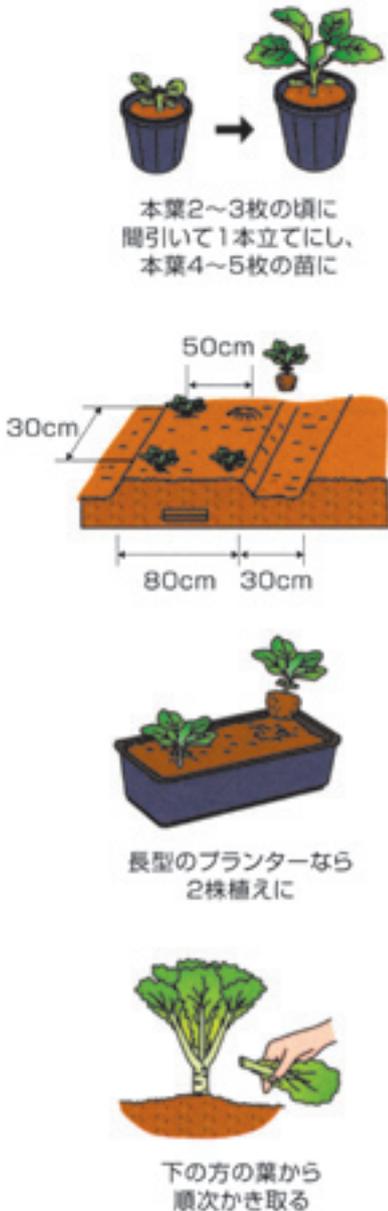
サラダやトッピング、バーベキューの材料にもよく合うなど、幅広い使い向きが魅力です。

1株当たりの収量が多いので、育てる株数は少数でもよいので、庭先のミニ菜園やプランターでも十分間に合うし、栽培も容易で、家庭菜園向きのお薦め野菜です。プランターでは青赤を混植すれば彩りを楽しむことができます。種まきの適期は4月中旬と8月中旬です。3号のポリ鉢に、良質の育苗用土を詰め、4〜5粒まきとします。覆土はごく薄くし、発芽までは新聞紙で覆い、乾かないよう灌水(かんすい)

い)に注意します。発芽ぞろい後逐次間引いて1本立てとし、本葉4〜5枚に育てて定植します。

生育期間が長いので、元肥には良質の完熟堆肥を十分施します。植えつけ後は生育の様子をよく観察しながら15〜20日に1回ぐらい、1株当たり油かす小さじ2杯、化成肥料小さじ1杯を株の周りにばらまき、軽く土に混ぜ込みます。葉の伸びが遅くなったなら液肥を所定濃度に薄めて灌水代わりに施すと肥効がよく表れます。

収穫は葉の長さが20センチ内外に育ったら、下の方の葉から順次手でかき取るように



本葉2〜3枚の頃に間引いて1本立てにし、本葉4〜5枚の苗に

長型のプランターなら2株植える

下の方の葉から順次かき取る

## 「JA版農業電子図書館を」つかってみよう!!

当JAでは、病害虫や雑草、農業など生産に関する情報が簡単に検索できる、タッチパネル式の情報端末「JA版農業電子図書館」を窓口相談機能の充実と、迅速な指導や最新情報の提供等、組合員サービスの向上を図るため、営農施設に設置しています。

皆様のご利用をお待ちしております。

\*設置店舗：総合営農経済センター  
片貝営農センター  
千田園芸資材センター



病害虫・雑草診断など簡単に操作できます!!  
探したい項目を指でタッチ!!

にして行います。1回に取る葉数は、通常1株2〜3枚以内と考えてよいですが、その時点での草勢を見て適宜調整してください。収穫を重ねるごとに茎は太くたくましくなり、胸の高さ以上にもなります。良質の取り立ての葉は直売所でも人気商品となること請け合いです。

●板木利隆

板木技術士事務所